

報道関係者 各位

平成 28 年 9 月 13 日

【照会先】 保険局調査課

課長 山内 孝一郎（内線：3291）

数理企画官 仲津留 隆（内線：3293）

担当係 医療機関医療費係（内線：3298）

電話：03-5253-1111（代表）

03-3595-2579（直通）

## 「平成 27 年度 調剤医療費（電算処理分）の動向」を公表します

厚生労働省では、毎年、調剤医療費の動向及び薬剤の使用状況等を把握するために、電算処理分のレセプトを集計し、「調剤医療費（電算処理分）の動向」として公表しています。このたび、平成 27 年度の集計結果がまとまりましたので公表します。

### 【調査結果のポイント】

- 平成 27 年度の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 7 兆 8,192 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+9.3%）であり、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,546 円（伸び率+7.3%）であった。  
その内訳は、技術料が 1 兆 8,283 億円（伸び率+3.4%）、薬剤料が 5 兆 9,783 億円（+11.3%）、特定保険医療材料料が 126 億円（+3.8%）であり、薬剤料のうち、後発医薬品が 8,502 億円（+18.2%）であった。【表 1、表 2】
- 処方せん 1 枚当たりの調剤医療費を年齢階級別にみると、年齢とともに高くなり、75 歳以上では 11,730 円と、0 歳以上 5 歳未満の 3,328 円の約 3.52 倍であった。【表 3】
- 後発医薬品割合は、平成 27 年度末で数量ベース（新指標）が 63.1%であり、年度平均でみると、数量ベース（新指標）が 60.1%（伸び幅+3.7%）、薬剤料ベースが 14.2%（+0.8%）、後発医薬品調剤率が 63.1%（+2.3%）であった。【表 4】
- 内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料の伸び率は+9.8%となっており、この伸び率を「処方せん 1 枚当たり薬剤種類数の伸び率」、「1 種類当たり投薬日数の伸び率」、「1 種類 1 日当たり薬剤料の伸び率」に分解すると、各々▲0.8%、+1.9%、+8.6%であった。【表 5】
- 平成 27 年度の調剤医療費を処方せん発行元医療機関別にみると、医科では病院が 3 兆 2,954 億円、診療所が 4 兆 4,983 億円であり、平成 27 年度末の後発医薬品割合は、数量ベース（新指標）で、病院が 63.1%（伸び幅+4.7%）、診療所が 63.1%（+4.4%）であった。また制度別でみた場合、最も高かったのは公費の 67.9%（+5.0%）であった。【表 14、表 15】
- 平成 27 年度末の後発医薬品割合を、数量ベース（新指標）の算出対象となる医薬品について、薬効大分類別にみると、薬効大分類別の構成割合が最も大きい消化器官用薬は 76.3%、次いで大きい循環器官用薬は 63.6%であった。【表 16】